

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第12週[3月22日～3月28日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

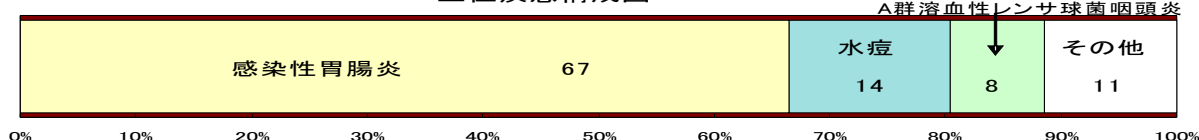
県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：なし

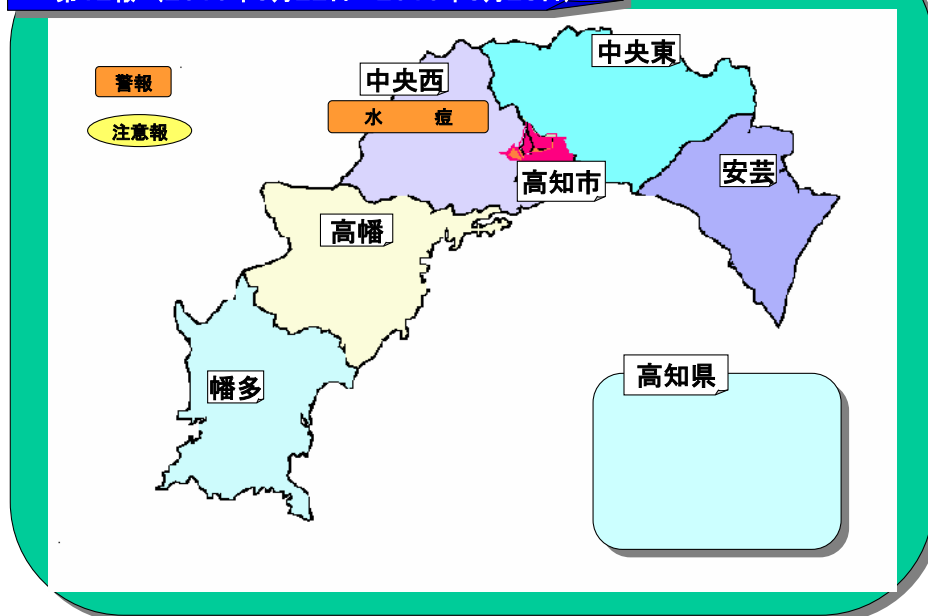
- ・ 週の前半は雨が降り続き、後半は晴れたが気温は上がりず花冷えとなった。
- ・ 感染性胃腸炎は全ての地域で減少し、総数は前週の約65%に減少した。
- ・ 水痘（中央西：警報）は高知市と高幡で減少したが、その他の地域では増加した。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は地域毎に増減がみられ、総数はやや増加した。冬型疾患であるが、流行のみられる年とみられない年があり、今年は流行がみられず低いレベルで推移している。
- ・ RSウイルス感染症は総数は大幅に減少し、今シーズンの流行は終息に向かっていると思われる。
- ・ インフルエンザは前週に引き続き高知市から2例報告されたのみであった。

上位疾患構成図



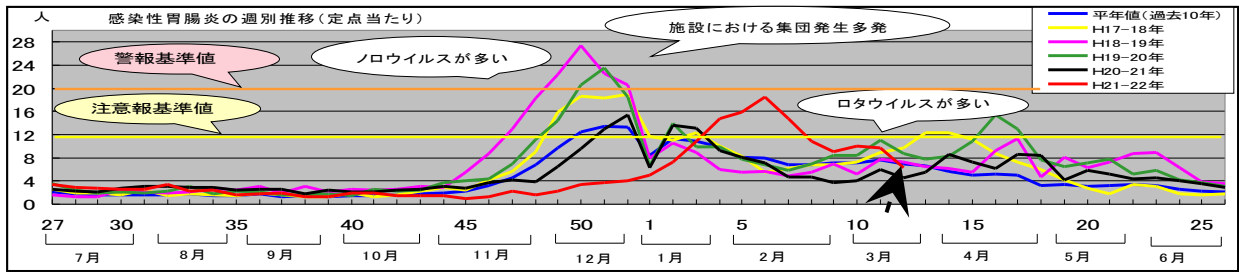
地域別感染症注意報・警報発生状況

第12報 (2010年3月22日～2010年3月28日)



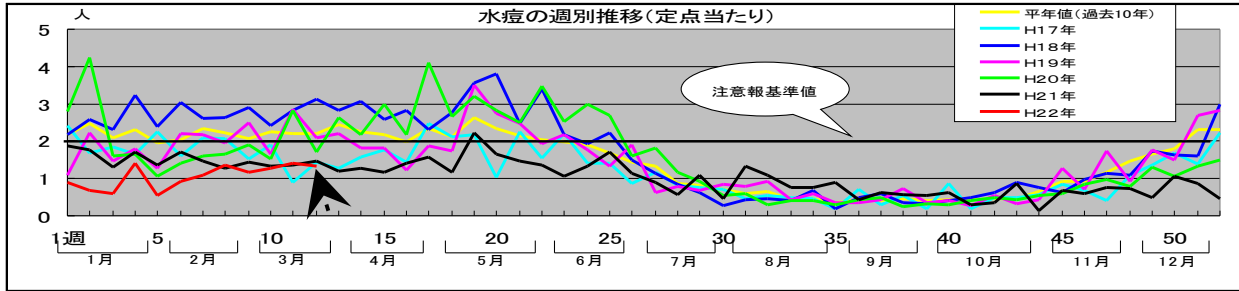
感染性胃腸炎：今週6.37 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

総数は大幅に減少し、全ての地域で注意報値を下回った。しかし、搬入された検体からは今週も Norovirus GII 3件、Norovirus GI 1件が検出されている。6月頃までは、引き続き推移に注意が必要である。



水痘：今週1.33（注意報値：2.00 警報値：4.00）

総数はやや減少し、例年と比較して低いレベルで推移している。しかし、中央西では大幅な増加により警報値を超えており、今後も推移に注意が必要である。



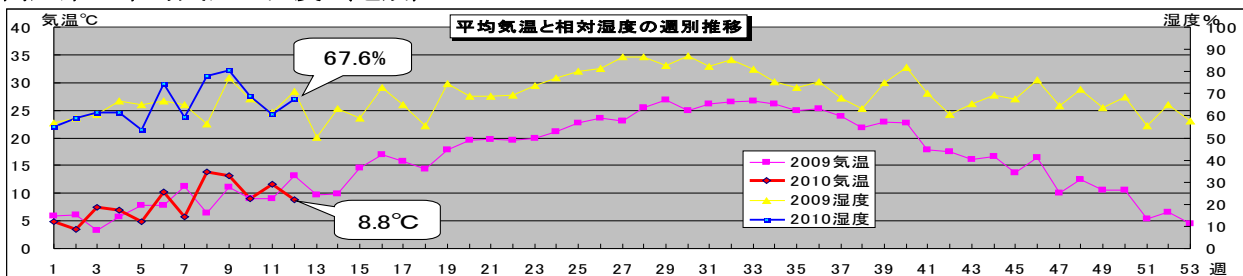
○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
10	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5歳男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i>
10	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12歳女	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i>
11	急性肺炎	5歳男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
9	RSウイルス感染症	2歳女	幡多	Norovirus G II
9	RSウイルス感染症	2歳女	幡多	Human bocavirus
12	感染症胃腸炎	1歳女	中央東	Norovirus G II
12	感染性胃腸炎	11ヵ月男	高知市	Norovirus G II
12	感染性胃腸炎	5歳男	高幡	Norovirus G I

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 3例（83, 87歳女）《中央東》（85歳女）《幡多》（今年35例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 1例（0歳女）
 《木俣病院小児科》：感染性胃腸炎の12例中9例は成人

高幡：

《もりはた小児科》：帯状疱疹 1例（10歳女）
 百日咳の1例（6歳女）は東浜株1280倍，山口株2560倍

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：帯状疱疹 1例（8歳男）
 アデノウイルス扁桃炎 4例（1, 3歳男女）

中央東：

《早明浦病院小児科》：引き続き感染性胃腸炎が流行中

全国情報第10週 (3/8～3/14) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核288例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症22例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎8例、レジオネラ症9例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎4例（B型：3例、C型：1例）、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群10例（AIDS 3例、無症候7例）、ジアルジア症1例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、梅毒13例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、麻しん9例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎2例、レジオネラ症1例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例

◆インフルエンザ

2010年第10週のインフルエンザの定点当たり報告数は0.51（報告数2,451）となり、第4週以降減少が続いている。都道府県別では富山県（1.79）、佐賀県（1.77）、新潟県（1.73）、山形県（1.52）、岩手県（1.42）、沖縄県（1.00）、福井県（0.84）、長野県（0.75）、鳥取県（0.72）、香川県（0.72）の順となっている。40都道府県では前週よりも減少がみられている。

定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数の推計値は約3万人（暫定値）と減少し、第28週以降これまでの累積の推計受診患者数は約2,066万人（暫定値）となった。性別では男性約1,066万人（51.6%）、女性約1,000万人（48.4%）であり、年齢群別では5～9歳約520万人（25.3%）、10～14歳約476万人（23.1%）、15～19歳約280万人（13.6%）、0～4歳約229万人（11.1%）、20～29歳約219万人（10.6%）、30～39歳約155万人（7.5%）の順となっている。

入院率は、人口1万人当たり1.40であり、年齢群別にみるとこれまでの患者発生数を反映して5～9歳（人口1万人当たり12.28）が最も高い1峰性のピークを示しているが、推計受診患者数（暫定値）当たりでみると推計受診患者1,000人当たり0.85となり、年齢群別では15～19歳と20代が最も低く、幼若年齢層（0～4歳：推計受診患者1,000人当たり1.91）と高齢者層（60～69歳：同2.78、70歳以上：同5.21）で高い値を示している。死亡率は、人口10万人当たりでは0.16であり、年齢群別では0～4歳（人口10万人当たり0.32）、5～9歳（同0.23）、40～49歳（同0.19）、50～59歳（同0.18）の順となっており、10代、20代、30代は他の年齢層に比べて低い。一方、推計受診患者（暫定値）1万人当たりの致死率は0.10であり、年齢群別では10～14歳、15～19歳（推計受診患者1万人当たり0.01）が最も低く、70歳以上（同2.82）、60～69歳（同1.47）、50～59歳（同0.66）と高齢者程高い致死率を示している。人口当たりの入院率、死亡率からは、新型インフルエンザ流行のインパクトは9歳以下の幼若年齢層で高いことは明らかであるが、実際に新型インフルエンザに罹患した場合の入院率、致死率は高齢層の方が高くなっている。

患者報告数が増加し始めた2009年第28週以降では、2010年第10週までに、全国の地方衛生研究所から29,145件のインフルエンザウイルスの検出が報告され、AH1亜型（Aソ連型）18件（0.06%）、AH3亜型（A香港型）153件（0.52%）、B型35件（0.12%）、AH1pdm（新型インフルエンザウイルス）28,939件（99.29%）とインフルエンザウイルスの検出報告数の大半をAH1pdmが占めている。また、2010年に入っても第1～10週までの10週間で検出・報告された2,603件中、AH1亜型0件、AH3亜型5件（0.19%）、B型29件（1.11%）、AH1pdm 2,569件（98.69%）と殆どがAH1pdmである状態が継続しており、現在国内で発生しているインフルエンザの殆どは新型インフルエンザによるものであると推定される状態が続いているが、AH3亜型がわずかに検出され、ビクトリア系統を中心としたB型インフルエンザウイルスの報告数もやや増加している。

定点からの報告数は、2009年第48週をピークに減少し続け、2010年第3週に一旦やや増加したものの、第4週以降再び減少が続き、2009年第33週以降、インフルエンザの全国的な流行開始の指標である1.00を上回った状態が2010年第8週までの29週間継続していたが、2010年第9週に1.00を下回り、第10週はさらに低下した。現在日本国内においては、インフルエンザの流行は散發的なものも含めて殆どみられていないと予想される。しかし、まだ新型インフルエンザの今後の発生動向については不明な点も多い。加えて季節性のB型インフルエンザウイルスの検出も継続して見られている。インフルエンザの発生動向には今後とも注意が必要であると思われる。

◆感染性胃腸炎関連ウイルス2009/10シーズン

2009/10シーズンに入ってからからの病原体個票による報告では、2009年第36週～2010年第10週にノロウイルスgenogroup (G) I 80件（うち、GI/2 1件、GI/4 7件、GI/7 2件、GI/8 2件、GI/12 1件、NT 67件）、GII 1,107件（うち、GII/1 1件、GII/2 64件、GII/3 28件、GII/4 149件、GII/6 12件、GII/12 7件、GII/13 1件、GII/14 1件、NT 844件）、G不明154件、サポウイルス28件（うち、GI 5件、GII 3件、NT 20件）、SRSV（電顕で検出）1件、A群ロタウイルス62件（うち、G1 2件、G9 1件、NT 59件）、アストロウイルス（1型）1件が検出されている。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(11週)	高知県(12週末累計) H22/1/4~H22/3/28
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ			2				2 (0.04)	2 (0.04)	1,926 (0.41)	2,537 (52.85)
	咽頭結膜熱		1	1			1	3 (0.10)	3 (0.10)	521 (0.17)	12 (0.40)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	15	3		2	23 (0.77)	16 (0.53)	4,847 (1.61)	260 (8.67)
	感染性胃腸炎	21	32	74	30	8	26	191 (6.37)	292 (9.73)	30,220 (10.06)	3,997 (133.23)
	水痘	1	9	10	13	1	6	40 (1.33)	42 (1.40)	5,609 (1.87)	380 (12.67)
	手足口病				1			1 (0.03)	3 (0.10)	1,259 (0.42)	21 (0.70)
	伝染性紅斑			2				2 (0.07)		505 (0.17)	20 (0.67)
	突発性発疹		1	3	3	1	1	9 (0.30)	7 (0.23)	1,523 (0.51)	104 (3.47)
	百日咳					1		1 (0.03)	2 (0.07)	52 (0.02)	9 (0.30)
	ヘルパンギーナ			1			1	2 (0.07)		208 (0.07)	14 (0.47)
	流行性耳下腺炎			3			1	4 (0.13)	1 (0.03)	3,464 (1.15)	49 (1.63)
	RSウイルス感染症		3	3	2	1		9 (0.30)	30 (1.00)	1,786 (0.59)	735 (24.50)
アフター性口内炎								2 (0.07)		22 (0.73)	
眼科	急性出血性結膜炎									13 (0.02)	1 (0.33)
	流行性角結膜炎									340 (0.50)	6 (2.00)
基幹	細菌性髄膜炎								1 (0.14)	12 (0.03)	2 (0.29)
	無菌性髄膜炎									6 (0.01)	1 (0.14)
	マイコプラズマ肺炎								1 (0.14)	209 (0.46)	11 (1.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									10 (0.02)	2 (0.29)
計 (小児科定点当たり人数)	22 (11.00)	49 (7.00)	114 (10.31)	52 (17.33)	12 (6.00)	38 (7.60)	287 (9.54)				
前週 (小児科定点当たり人数)	25 (12.50)	78 (11.14)	182 (16.31)	54 (18.00)	24 (12.00)	39 (7.80)		402 (13.31)	52,510		8,183 (240.29)

定点当たり

第12週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週
			中央東	高知市	中央西				
内科・小児科	インフルエンザ			0.13				0.04	0.04
	咽頭結膜熱		0.14	0.09			0.20	0.10	0.10
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	1.36	1.00		0.40	0.77	0.53
	感染性胃腸炎	10.50	4.57	6.73	10.00	4.00	5.20	6.37	9.73
	水痘	0.50	1.29	0.91	4.33	0.50	1.20	1.33	1.40
	手足口病				0.33			0.03	0.10
	伝染性紅斑				0.18			0.07	
	突発性発疹		0.14	0.27	1.00	0.50	0.20	0.30	0.23
	百日咳					0.50		0.03	0.07
	ヘルパンギーナ			0.09			0.20	0.07	
	流行性耳下腺炎			0.27			0.20	0.13	0.03
	RSウイルス感染症		0.43	0.27	0.67	0.50		0.30	1.00
アフター性口内炎								0.07	
眼科	急性出血性結膜炎								
	流行性角結膜炎								
基幹	細菌性髄膜炎								0.14
	無菌性髄膜炎								
	マイコプラズマ肺炎								0.14
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								
計 (小児科定点当たり人数)		11.00	7.00	10.31	17.33	6.00	7.60	9.54	
前週 (小児科定点当たり人数)		12.50	11.14	16.31	18.00	12.00	7.80		13.31

2010年週報推移(定点当たり)

